30amS-004

薬学生のフィジカルアセスメント実習に対する意識調査 － 1 年次生、4 年次生、6 年次生間の比較－

○今西　孝至[1], 髙山　明[1]（[1]京都薬大）

【目的】京都薬科大学では臨床教育の充実化を図るため 4 年次の事前実務実習でフィジカルアセスメント実習を導入している。現在、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改定作業が進められており、その中で大項目【F：薬学臨床】に「一次救命処置を説明し、シミュレータを用いて実施できる」や「基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる《模擬》」などの SBOs の追記が検討されている。そこで今回、初年次教育段階である 1 年次生、専門教育段階である 4 年次生および卒業段階である 6 年次生に対し、応急手当実習およびフィジカルアセスメント実習についての意識調査を実施した。

【方法】実習または講義に出席した 1 年次生 362 名、4 年次生 372 名、6 年次生 315 名に対し、アンケート調査を行った。各質問項目の回答は 4 段階評価で行い、平均値を算出した。なお、アンケートは無記名回答とし、各学年とも同一のアンケート用紙を用いた。

【結果・考察】薬剤師によるフィジカルアセスメント（PA）が一部の病院や保険薬局で実施されていることについて知っている学生の割合は、1 年次生で 20.7%、4 年次生で 52.4%、6 年次生で 82.9%と高学年になるにつれて有意に増加した。次に、応急手当実習やフィジカルアセスメント実習をカリキュラムに導入する必要性については、1 年次生（応急手当：3.37、PA：3.13）および 4 年次生（応急手当：3.39、PA：3.14）では高く評価していたが、6 年次生では低下傾向（応急手当：3.12、PA：3.01）を示した。また、これらの実習の受講意欲は、1 年次生が最も高く（応急手当：3.38、PA：3.40）、4 年次生で一旦低下（応急手当：3.16、PA：3.15）したものの、6 年次生ではやや増加傾向（応急手当：3.24、PA：3.22）を示した。今回の結果から、薬学部における臨床教育を効果的に実施するためには、学習意欲の高い初年次からの導入も視野に入れたカリキュラムを検討していく必要があると考える。